

石巻復興 NEWS

石巻専修大学経営学部 丸岡ゼミ 平成 24 年 10 月 31 日発行 第 16 号

ウェルカムフェスタ 2012「絆」 ～石巻ミュージアム～

2012 年 9 月 24 日に大型客船「にっぽん丸」が、26 日には豪華客船「ぱしふいっくびいなす」が、相次いで石巻港大手埠頭に寄港しました。

この寄港を祝して、「ウェルカムフェスタ 2012「絆」と題する歓迎イベントが行われました。

私たち石巻専修大学生は、「石巻ミュージアム」という企画を行い、イベントに参加しました。

24 日は、あいにくの雨で、多くの方には、訪れてもらえないという寂しい状況になってしまいました。

ですが、26 日は前々日とはうってかわって、快晴に恵まれ、多くの方に訪れていただきました。この日はとくに、ウェルカムフェスタ・「石巻ミュージアム共に、多くの方に足を運んでいただけました。

両船は、昨年石巻港へ寄港する予定でしたが、震災の影響で寄港が延期されていました。しかし、今回石巻港の復旧に伴い両船の寄港が実現しました。

私たちは、他の石巻市民とともに、入港時には、30 本の大漁旗を振って両船のお出迎えをしました。

ウェルカムフェスタでは、両船の船内見学イベント・石巻市・東松島市・女川町・松島町の観光 PR や秋刀魚の炭火焼きの提供等のイベントが開かれました。

「石巻ミュージアム」は、見る<See>・学ぶ<Study>・食べる<Eat>・応援する<Do>の四つのコンセプトで、石巻専修大学の学生が石巻を紹介する企画です。清水ゼミ、庄子ゼミの学生とともに、やきそば提供、企業紹介、防災の教訓を伝えるコーナーも設けました。

私たちは石巻の震災瓦礫を使い、江戸時代に支倉常長が乗った石巻名物の復元帆船、慶長遣欧使節船サンファンバウティスタ号の帆を模したオブジェを作りました。



ぱしふいっくびいなす
全長 183.4m
総トン数 26,594 トン
旅客定員 644 人

にっぽん丸
全長 166.4m
総トン数 22,472 トン
旅客定員 524 人

<石巻ミュージアム>

- 見る
- ・石巻の震災当時の写真の展示
 - ・石巻専修大学を訪問した有名人のサインの展示
- 学ぶ
- ・石巻にある企業の震災の被害・現状を私たちが調べ、パネルにしたものの展示
 - ・震災当時の経験談・情報から、学生が考えた「防災の教訓」の展示
 - ・石巻で行われたボランティア活動調査の報告展示
- 食べる
- ・学生が石巻ご当地グルメの石巻焼きそばを作り、無料提供
 - ・柵木の屋石巻水産「鯨の大和煮」の試食コーナー
- 応援する
- ・ペナントに石巻・石巻の人へ対する応援メッセージの寄せ書き
 - ・サンファンバウティスタ号の帆を模したオブジェに応援メッセージの寄せ書き

イベント時、私たちは、テントを訪れた人の写真を撮りその場で印刷し、その裏面にメッセージを書いていただき、オブジェに貼り付けていきました。

写真が増えていくと、帆が開いた状態に見えます。

出港時には、鳴瀬鼓心太鼓・渡波獅子風流などが行われ、両船を見送りました。

イベント中に船内見学イベントに訪れていた石巻在住の男性に話を聞いてみると、船で旅することが夢で、「今日は、夢を見に来たんだ」とおっしゃっていました。

約一年半前までは、現実から目を背けたくなるような状況、今生きるのに精一杯という状況でした。

震災から時間が経ち、復興が少しずつ進み、人が夢を語れる状態・心に余裕を持てるようになってきています。

人々が震災当時とは違う精神的状態に変わってきているのかなと思いました。

これまで私たちは、様々な所で震災や防災の展示を行い、震災当時の事を伝えてきました。

しかし、今回のイベントでは、震災後の石巻の良いところを伝える観光PRに近い展示も行いました。

今回このイベントに参加してみて、震災から約一年半が経ち、石巻の物質的な復興・被災者の精神的復興・発信していく情報の変化を感じることができました。

(永田清龍)



「石巻ミュージアム」イベント風景

ウェルカムフェスタ参加者の声

10月26日、私たちは石巻港に寄港した豪華客船「ばしふいっくびいなす」の歓迎イベント「ウェルカムフェスタ2012「絆」」に参加しました。私たちはブースを設けて、このイベントで自分たちのブースに立ち寄ってくださった方と会話をすることもありました。

その中でも、ある二人の話がとても印象に残っています。

一人目の方は、40代くらいの女性の方で石巻に住んでいるそうです。その人は、震災のことについて感じたことを話してくれました。それは、震災時の石巻のボランティアの受け入れ態勢についてです。

石巻は震災後のボランティアは5人以上のグループでないと参加させてもらえず、ボランティアをしたいと思っているが人数が少ないことを理由に断られてしまうことがあったそうです。しかし、震災の被害にあった他の町では少人数でもボランティアとして活動することができたようです。その方は、石巻も他の町のようにボランティアを受け入れていればもう少し早く復興へと向かっていったのではないかと熱く語っていました。

二人目は、60代くらいの男性で宮城県外から客船に乗って来た方でした。私たちのブースでは、震災以前の石巻の様子が載っている本などを置いていたのですが、その方は黙々と写真に見入っていました。

話を聞いてみると、震災後の石巻の様子はテレビの報道などで目にしていたが、震災前の様子はこの本で初めて見たとのことでした。震災がきっかけで石巻のことを知る人が増えたとは思いますが、震災前の石巻の様子を知っている人はあまりいないように感じます。

どちらの人も東日本大震災から1年半以上たった今でも、震災に対する強い気持ちを持っていたことに少しの安堵感を抱きました。

今回この企画が多くの人との交流の場になって良かったと思います。このようなイベントで直接届いた声を聞くことができるのはとても貴重な経験です。それなのでこれからもたくさんの人の震災への気持ちを聞いてみたいです。

(横山風太、末永寛二)



東北電力女川原発PRセンターでの研修

繋がる ASEAN と被災地

10月6日(土)と7日(日)、石巻専修大学で『石鳳祭』が行われている中、公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)の研修プログラムで、ASEAN(東南アジア諸国連合)加盟のインドネシアやミャンマーなどの国々から14名が石巻に視察にやって来ました。

インドネシアから来た男性に「石巻について、あなたはどうか感じたか」と質問をすると、「日本の地震の影響は本当にすごかったという事を改めて知らされた。」と話していました。2004年にインドネシアで発生したスマトラ島沖大地震を思い出し、その時の様子を尋ねてみると、石巻同様とても深刻だったそうです。

6日は石巻専修大学で文化祭の雰囲気を楽しみながら石巻専修大学の生徒と交流をしました。初めて見る日本の文化祭で、物珍しそうに出店を見ていました。ミャンマーの方に石巻焼そばを勧めたところ、「美味しいです。この料理は初めて食べました」と話していました。次に、インドネシアの方に「牛タンアイス」を勧めました。食べてみると「不思議な味だ」と言っていました。

7日は大学の4号館2階の教室で丸岡教授の特別講義、ゼミ生徒による「ボランティア調査報告」の発表、そしてASEANの方々からの発表がありました。

丸岡教授の特別講義では自身の経験や石巻の地図などを用いて被災状況を説明しました。次に学生(久道)が「ボランティア調査報告」を英語で発表しました。不慣れた英語で必死に発表をしました。ASEANの方々は一瞬も離れず真剣な眼差しで講義を受け、スクリーンを観ながらメモをとる様子が見られました。続いてASEAN側からは被災地での活動報告をしてもらいました。代表が、津波に襲われた港の視察や被災地の現状、女川原子力発電所の視察などの活動をまとめ報告しました。

ASEANの方々に「あなたの国で被災地についての報道はありましたか?」と質問したところ、「地震直後にはインターネットで報道されていたが、今はもう誰も知らない状況だと思います。」と話していました。

今回の被災地訪問によりASEANの方々には被災地について強い印象を受けたと言っていました。私はこの訪問が海外の方々が被災地に近づく第一歩だと思いました。また、この機会に知り合うことができた方々との交流を続け、被災地と他国が繋がるきっかけになるようにしたいです。

(久道溪、佐藤良輔)

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

E-mail senshu-maruoka@inter7.jp



私たちのテントに「ばしふいっくびいなす」のドクターも